

朋友

For You

沖縄セントラル病院広報誌

2012年6月発行 Vol. 19



医療法人寿仁会

沖縄セントラル病院
ユートピア沖縄

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀 1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519

URL <http://www.jyujinkai.jp/central/> E-Mail: centh1@nirai.ne.jp

目 次

20年永年勤続者	3
経営改善プロジェクト	5
回復期リハビリ病棟	6
新入職員紹介	8
わたしと三味線	10
病院の基本理念	11
外来・ドック・訪問診療担当表	12

表紙の写真：リビングストーン / 和名サボテンギク、ヘラマツバギク
南アフリカのケープ州原産。名前の由来はアフリカの探検家、リビングストーン氏にちなんでつけられたそうです。一度にたくさん咲くとパステルカラーの絨毯のようになります。
花言葉は瞳の輝き、大成功、賑やかな人。

特定非営利活動法人アムダ

AMDA

沖縄

AMDA沖縄 会員募集 救える命があればどこへでも！

AMDA 沖縄の活動を応援して下さる会員を募集しています。

入会希望の方は下記まで連絡下さい。
(医師・一般・法人・学生等)

那覇市与儀1丁目26番6号(沖縄セントラル病院内)
TEL098-854-5511(担当:津波占)

AMDAの活動へのご支援のお願い

AMDAでは今後も平和を妨げる戦争、災害、そして貧困に苦しめられている人々への保健医療支援を行なっていきます。

今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。ご寄附の場合は下記の口座までお願いします。

沖縄銀行 与儀支店 普通預金 1295760
アムダ沖縄代表 大仲良一(おおなかよしち)

～ 沖縄セントラル病院は今年で創立 40 年を迎えます。～

勤続 20 年の職員に、病院への深い想いを述べて頂きました。

勤続 20 年に想う

医療技術部長 我謝光茂

5色のテープが飛び交う十数人の後輩達が見送る船からの旅立ちだった。

本土への憧れと検査技師の資格を取るため名古屋へ、昼間は病院で検査助手として働きながら夜は学校へ、親の仕送り無しで何とか検査技師免許を取得して結婚、そして子供も出来て、十数年過ごした名古屋に永住かと思われたが、子供の小学校入学と同時に帰郷を決断した。

数年後、沖縄セントラル病院へ就職。早くも20年の歳月が過ぎたのかと感じていた。

病院での業務は、全般的な検査から、各種委員会や会議も年々増えて、辛い思いもありましたが、色々な方々との出会いと別れ、たくさんの思い出、振り返って思えば、充実した20年でした。病院の行事等では、市民会館大ホールでのチャリティーショー、バスでの南部、中部、北部、また徒歩で市内の史跡めぐり、第一駐車場にやぐらを立てて盆踊り、那覇ハーリー参加、辺戸岬から病院まで約15時間かけての本島縦断駅伝の実施、数班に分かれ2泊3日の自衛隊体験入隊もあった。

数を挙げればまだまだありますが、貴重な体験をさせて頂き、大仲理事長へは大変感謝申し上げたい。

今年、病院創立40周年を迎えるにあたり、今までの感謝を込め、沖縄セントラル病院の歴史に思い出を残そうと思っているところだ。



3年前のハーリー参加の写真

辞令交付式

平成24年5月1日(火)13:00 視聴覚室にて辞令公付式が行われた。医局長に 加藤健作、医事課長に寺田洋が就任することになります。



←写真右側
加藤医局長



←写真中央
寺田医事課長

親父と20年

フローゲンセンター長 金城友一

始まりは、1本の電話だった。

「金城、医療機関で働いてみる気はないか？」

大学時代の恩師からだった。

先生から一通り説明を受け、「話だけでも聞いてみよう」そんな軽い気持ちでメモした電話番号にダイヤルした。

受付の女性としばらくやりとりした後、代わった大仲理事長は一言「時間はありますか」「はい」と僕。「では、すぐ来てください」

そそくさと身支度を整え、教わった住所案内の地図を片手にバイクにまたがった。1時間後、面談を終えた理事長は「では、明日から来てください」

「えっ…」「採用決定です」電光石火の就職決定だった。

あれから20余年…まさか、これ程長く沖縄セントラル病院に勤めることになろうとは夢にも思わなかった。

病院での最初の仕事は図書室蔵書の貸し出し用名簿の作成とラベル貼りだった。

喜久川健康管理部長の営業活動の助手として、多くの企業訪問にも同行させていただいた。今では想像もできないが、毎朝ネクタイを締めての出勤。

「オレは、どうしてこんなことをしているのだろう…」毎日、そう思った。

本土での2度の研修を終え、ようやくTHPヘルスケアトレーナーの資格を取得したのは、それから半年後。しかし、新規事業、直に仕事が軌道に乗る訳ではなかった。業務の空いた時間は、ドック検診のデータ入力や病院の公的文書の作成を手伝った。そして、いつしかそれが僕の主業務となっていた。また、用度の仕事も数多く手伝った。電気、水道、大工仕事にボイラー業務、植栽管理…頼まれたらどんな仕事でも二つ返事で引き受けた。朝から作業服を着て、油やドロ、ホコリにまみれながらの作業…そして作業後は「うたいの一し（疲れ直し）」とっては連日の酒宴…良き思い出だ。

そんな僕が、一度だけ病院を辞めようかと悩んだことがある。それは、現在の仕事であるフローゲン開設の時だ。理事長からセクション異動の打診を受けたが、即答できなかった。「少し考える時間をください」ゼロからの開設が大変なことはわかっていた。好きなことを仕事にすることに躊躇もあった。もしかしたら好きなことが嫌いになるかもしれない…そんな気持ちが頭のどこかにあった。そして当時は、何よりボディビルダーとして、未だ現役に未練があった…。

しかし、結局は引き受けた。それからは朝8時から夜10時まで、時には飲まず食わず、休憩なしで一心不乱に働いた。



20年前当時の20周年創立記念参加写真

開設してから100日の間、1日も休まなかった。何かを得るには何かを犠牲にしなくてはならない…。70kg以上あった体重は60kg 台前半まで落ち、長年かけて作り上げた筋肉はごっそり消えてなくなった…。

そして今…。ボディビル時代の経験や知識が、フローゲンでの仕事の礎だ。また、そればかりでなく、ドック検診業務で培った医療の知識、用度の仕事で学んだ機器に関する知識や修繕の技術…それら全てが今の仕事に活かされている。

大仲理事長は事ある毎に仰った「一般職は仕事を選ばな、何でもしなさい」と。

その言葉を心に刻んできた。

「職場を自分の家だと思って仕事にあたってください」耳にタコが出来るほど聞かされた。いつしか、自然にそう行動できるようになった。

また、病院経営の大変さをよく「舟の船頭」に例えて話されることがあった。

「舵取りを誤ると船は沈んでしまう…」

フローゲンセンター長として、常にこの言葉を念頭に置いてがんばってきたつもりだ。そして、それはこれからも変わらないだろう。

最後に、昔から酒の場で興に乗ると大仲院長のことを「親父、親父」と呼んできた。無礼講にも程があると思う。でも院長のことが好きだから、家族のように大切に思うから、そう呼んできた…。そして、これからも呼び続けたい。心からそう思う。

僚友の声 : 彼はマッスルマンとして西日本のベルトをまいた程でした。



経営改善プロジェクト キックオフ説明会

平成24年4月25日(水)6Fホールにて株式会社日本経営エスディーサポートによる経営改善プロジェクト キックオフ説明会が行われた。医師や看護師など総勢80人を超える参加で、違った角度からチェックされ、現場での新発見も多々ありました。

“主役は皆様…”を題目にされていました。

当院の27~8年前の院内ニュースの巻頭言に類似した

“今年は貴方が主役です”が載っています。

同プロジェクトは各客車両(職員)毎に駆動源を持つ日本の新幹線に例えられた動きが求められています。



エスディーサポート担当 小林氏



会場の様子



理事長挨拶

回復期リハビリテーションは、脳血管障害、脊椎損傷、骨折、交通外傷などを発症し急性期治療を終え、病状が安定してから、機能訓練を必要とする患者に、総合的なリハビリテーションを提供する事です。

医療のスペシャリストのチーム医療（医師・看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士など）でカンファレンスを行い、患者様の状態の把握をして、月毎に目標の設定や見直しをして、充実した入院生活を図っていきます。

回復期リハビリテーションは“機能を回復させ自宅に帰るのが目的です”。

リハビリ分野としては、以下の専門職があります。

理学療法分野（PT）

起き上がり、歩行などの基本的動作能力の回復を目的とした種々の運動療法、歩行訓練、日常生活活動訓練、物理療法などの治療、援助を行う療法をします

作業療法分野（OT）

身体または、精神に障がいのある者、またはそれが予測される者に対して、その主体的な活動の獲得を図るため、諸機能の回復・維持及び、開発を促す作業活動（農耕・手芸などの作業、レクリエーション、身辺動作や家事動作）など社会復帰を目指した治療・指導・援助を行います。

言語聴覚療法分野（ST）

人と人との大切な、言葉によるコミュニケーションに関わるもので病気や事故により言語に障がいをもたれた方で、以前のように言葉を理解したり話したりすることの出来なくなる「失語症」、上手く呂律が回らず上手に話せなくなる「構音障害」、水分や食事をするむせぶ等の「嚥下障害」と様々な後遺症が存在し、発声や発音の障がいに関係がある方の支援をする専門職です。



作業療法（手芸活動）の様子





リハビリ室での歩行訓練

当院に於ける回復期リハビリテーション病床は57床で、急性期病院からの情報提供書や外来での診察などで、入院が可能となります。社会福祉士のスタッフと相談が必要になります。

リハビリ科スタッフは理学療法士：9名、作業療法士：9名、言語聴覚士：2名の総勢20名で構成されており（H24年5月18日現在）、

365日体制で稼働しています。対象となる疾患は現在、脳血管疾患4割・運動器疾患6割となっています。

月曜日と水曜日は、生活の場である病棟での訓練も行います。その理由としましては、リハビリテーション室でできる動作が、病棟ではうまくできない動作になる場合もあるからです。万遍なく、どこでもできるようになることがとても大切なのです。

院内での環境設定に限界がある場合には、外出訓練などにより実際の生活場面に類似した同一の環境でのリハビリテーションを積極的に実施しています。

退院後の生活とのギャップを最小限に抑え、その後の生活習慣に円滑に移行できるように援助する為に患者様自身の事前の希望のもと、自宅の生活空間の確認やスーパーでの買い物など、より範囲を広げた生活行為を、必要に応じて入院期間中に練習します。

又、リハビリテーション室でのリハビリの様子を、病棟の看護師や介護士が身近に見ることで、患者様の状態の把握に繋げることも大事な事です。

当院では、このような一連の流れを念頭に、回復期リハビリテーションの目的である“生活機能向上”を達成すべく取り組んでいます。



チームでのカンファレンス

リハビリテーション科長 仲村実
4階回復期リハビリ病棟主任 平良信友



那覇ハーリー参加

ハーリーは約600年まえに(おきなわ)琉球に伝わったとされるこの伝統行事は今では市民など地域の祭り行事として根着き、数年来私たちも参加をしています。本番には子や孫を引き連れ、50人を超える職員の参加がありました。



競技の様子



集合写真

私と三線

リハビリテーション科 作業療法士 宮城 慎二

私と三線の出会いは8年前の事です。きっかけは奈良から沖縄旅行に来た際に、国際通りの民謡酒場で三線を演奏している人を見て、「自分も三線を弾きたい」という衝動にかられ、気が付けば次の日には三線と工工四を購入していました。それから、見よう見まねで練習し、ようやく1曲弾けた感動は今も忘れられません。「ていんさぐぬ花」という曲でした。その後県内の専門学校に入学して、学校の講義で三線を習う機会があり、少しずつ弾ける曲が増えていきました。

現在、作業療法士として勤務していますが、4階病棟では集団レクレーションを行っており、その中で三線を弾く機会がよくあります。参加者の方からは「今日は三線はないの？」という声が多く聞かれます。



三線を弾きながらみなさんの様子を伺っていると表情が穏やかになってくるのが分かります。三本の弦から奏でる音色は不思議なほどに人の気持ちを落ち着かせてくれます。三線は本当に魅力的であり不思議な力を持っている楽器だなど、演奏する度に感じています。今はまだ数曲しか弾く事が出来ませんが、もっと多くの曲を演奏できるように練習し、患者様に喜ばれるように努力していきたいと思っています。

ボーリング大会

去る、4月19日と21日の2日間に分けて、沖縄セントラル病院とユートピア沖縄の親睦ボーリング大会を行いました。延べ60人^世が参加しました。久しぶりにボールを持つ人は思うように行かず大笑いし、マイボールを持つほどの実力者は気合が入ってアベレージ200を超えてハイタッチの連続で、皆さん楽しい時間を過ごしていました。お疲れ様でした。

4/19 男子1位**前森啓太(2階病棟看護師)

女子1位**前森明美(3階介護士)

4/21 男子1位**安里健太(ユートピア沖縄グループホーム)

女子1位**仲里香織(ケー^スワーカー)

開催されたボーリング大会の様子



病院の基本理念

1. ひとすら病める人々のために
2. 健全なる人々の更なる健康増進のために
3. 集いし職員の生涯修養の館たらんことを

病院憲章

1. 私たちの病院は、地域の人々の健康と福祉を保証し、併せて健やかなる人々の病の予防と更なる健康増進のために努めることを目的とする。
2. 私たちの病院は、生命の尊重と人間愛を基本とし、常に医療水準の向上に努め、専門的・倫理的医療を提供するものとする。
3. 私たちの病院は、病める人々中心の医療の心構えを堅持し、地域の人々の満足を得られるように意欲ある活動をするものとする。
4. 私たちの病院は、何人も利用しやすく、且つ便益を人々に公正に分ち合うサービスを志向するものとする。
5. 私たちの病院は、地域医療体系に参加し、各々のもてる機能の連携により合理的で効率的な医療の成果を上げることに努めるものとする。
6. 私たち職員は、たゆみない研鑽を積み、医療の錬磨と医道の高揚に努め、限りない愛情と責任を持って、地域の人々のために最善を尽くすものとする。

看護部の理念

1. 地域の人々の疾病の予防と健康増進の為に、検診から在宅看護まで一貫した看護活動をとおして地域に貢献します。
2. 患者の身体的、精神的、社会的ニーズにお応えし、きめ細かな看護、介護の実践を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、質の高い看護、介護を提供する為に、看護研修や研究を継続します。

沖繩セントラル病院・ユートピア沖繩ご案内



沖繩セントラル病院

住所：沖縄県那覇市与儀1丁目26-6番地

電話：098-854-5511

ファクシミリ：098-854-5519

ユートピア沖繩

住所：沖縄県那覇市寄宮2丁目1-18番地

電話：098-854-5551

最寄りバス停留所：県立看護大学前（徒歩約1分）

<車でお越しの場合>

時間の目安：那覇インターより約15分。

：那覇空港より約20分。

ホームページアドレス：<http://jyuinkai.jp/>

外来・ドック・訪問診療 担当表

H24年 6月 1日実施

診療科	午前/午後	月	火	水	木	金	土
健診・人間ドック	午前	國吉	中村	瀬尾	國吉	中村	石田
内科 1	午前	石田	國吉	中村	石田	國吉	中村
	午後	加藤	加藤	石田	中村	加藤	石田
循環器内科	午前		鈴木(第2・4)	鈴木			
	午後	鈴木			松本	鈴木	
内視鏡	午前	加藤	加藤	石田	加藤	加藤	加藤
	午後						
脳神経外科	午前	宮城 航一	大仲	大仲	大仲	大仲	大仲
	午後	宮城 航一	宮城 航一	宮城 航一	外間	宮城 航一	宮城 航一
脳ドック・高気圧		大仲	大仲	大仲	外間	大仲	大仲
特朱外来 (ガンマナイフ・ パーキンソン)	午前						
	午後	宮城 航一	宮城 航一	宮城 航一		宮城 航一	宮城 航一
皮膚科	午前				琉大		
	午後						
外科	午前						
	午後				下地		
整形外科	午前	平	仲宗根(琉大)	平		平	
	午後	平	仲宗根(琉大)	平		平	
心療内科		※ 石津先生(不定期 月1~2回) 完全予約制					
歯科	午前	當間	當間	當間・仲程	當間・仲程	當間	當間・仲程
	午後	當間・仲程	當間	當間・仲程		當間・仲程	
訪問歯科	午前	仲程	仲程			仲程	
	午後						

■受付時間：午前8：30～12：30／後13：30～17：30

■診察時間：午前9：00～13：00／午後14：00～18：00

◎ガンマナイフセンター直通：854-5516（内線：217）

◎高気圧酸素治療センター00（内線：115）

◎リハビリテーションセンター（内線：500）

◎健康管理センター（内線：214・223）

●人間ドック●脳ドック●一般検診●特殊検診（航空身体検査・高気圧業務検査）

●メディカルフィットネスセンター「フローゲン」直通：854-5541（内線：502・504）

◎医療福祉相談室直通：855-7200（内線：219）

発行人：寿仁会理事長大仲良一編集：沖縄セントラル病院広報委員会 石田真一 新里善一 新里幸男 神山弥生 宜野座工 城間啓多

※当院敷地内は禁煙となっておりますので、ご理解ご協力の程をお願い致します。